

## SJ

The Safety Japan  
since 1971

## Safety Report

セーフティポ 子ども

Honda のプログラムを活用した  
幼児への交通安全教育の拡がり

Honda は幼児期から発達段階に合わせた交通安全教育が重要であると考え、安全行動の基本を身につけてもらうプログラムや、幼児の保護者に安全意識を高めてもらうためのプログラムを開発してきた。そして、教材や指導ノウハウを全国各地の交通安全指導者や Honda の関連企業に提供している。今回は Honda のプログラムを活用し、幼児やその保護者への交通安全教育を実施した事例を 3 つ紹介する。



## 事例① クミ化成 (株)

「あやとりい ひよこ」を活用した  
幼児への交通安全教室をスタート

1 月 29 日、Honda の関連企業であるクミ化成 (株) (本社：東京都千代田区) が群馬県の渋川市立北橋幼稚園で交通安全教室を実施した。同社は社内に Honda パートナーシップインストラクター (以下、HPI) を養成。HPI とは Honda の関連企業内で交通安全指導を担うインストラクターのこと。Honda の交通安全教育センターでの養成研修を受講した関連企業の社員が認定され、自社内をはじめ事業所の周辺地域における交通安全の普及に取り組んでいる。クミ化成が幼稚園に向いて交通安全教室を実施するのは今回が初となる。その背景を HPI である同社関東工場総務経理課課長 高砂良一さんは次のように話す。

「昨年から会社全体の取り組みとして、事業所のある地域での交通安全活動に力を入れています。Honda の交通安全教育プログラム『あやとりい ひよこ (以下、あやとりい)』を使えば、私たちだけで幼稚園や保育園の園児に指導ができると考えました。その第一歩として、関東工場がある渋川市の幼稚園や保育園に交通安全教室の開催をはたらきかけ、実現にいたったというわけです。

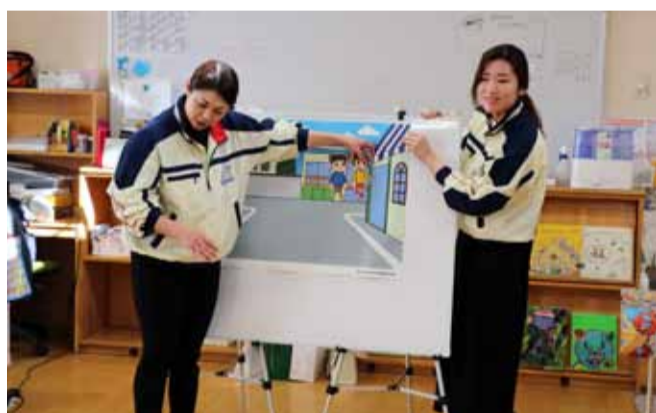
指導を担当するのは、関東工場の生方彰子さんと本社から応援に駆けつけた青木友里恵さん。二人は車道に路側帯が表示されている道路が描かれた「あやとりい」のワークシートを見せて、どこを歩けばいいか、園児に質問していく。園児の一人に幼児のイラストを渡し、ここを歩けばいいと思う場所に貼ってもらう。年長クラスの園児には「これから小学校に入って、友だちと一緒に歩く時は白い線からはみ出さないように一列で歩きましょう」とアドバイス。また、道路を横断する時は必ず止まって右、左、右を観ることを強調した。その後、「信号機のある交差点」が描かれたワークシートを使い、歩行者用信号機が青、青点滅、赤の時にどのように行動すれば安全かを伝えた。

「あやとりい」は指導する内容を対象や時間に合わせて自由に構成できるので使いやすいと、生方さんと青木さんはいう。進行用のシナリオは二人が考え、社内の HPI からアドバイスをもらいながら完成させたものだ。「北橋幼稚園の子どもたちが普段、目にする道路に近いワークシートを選ぶなど、生活実態に合わせた指導ができるように工夫しています。この周辺は歩道のある道路があまりないので、歩く場所の説明では路側帯のある道路に絞りました。

北橋幼稚園園長 根井勝広さんは「年少クラスの子どもたちが熱心にお二人の話に耳を傾けている姿が印象的でした。また、話を聞くだけでなく、質問に答えたり、イラストを貼ったりするなど、子どもたちが参加できる点も良かったと思います。地元の企業が交通安全活動に取り組んでいることは、たいへん心強く感じます」と感想を語った。クミ化成では今後、他の事業所でも同様の活動を展開していく予定だという。



路側帯のある道路ではどこを歩けばいいか、園児を指名し、ワークシートにイラストを貼って示してもらう



クミ化成 (株) の生方彰子さん (左) と青木友里恵さん (右) はイラストを使って、道路を渡る前に止まって右、左、右を観ることを強調した

## Contents

- P1 Safety Report セーフティポ 子ども
- P4 Close Up クローズアップ 交通教育センター①  
Safety Info インフォメーション
- P5 Close Up クローズアップ 交通教育センター②
- P6 SJ Interview 早稲田大学 人間科学学術院 教授 加藤麻樹さん
- P7 All About SAFETY 安全をいかに創造するか
- P8 危険予測トレーニング (KYT)  
SJ クイズ



## Safety for Everyone

Honda はすべての人の  
交通安全を願い活動しています。

SJ ホームページは

ホンダ SJ

検索

編集室：本田技研工業株式会社 安全運転普及本部内  
〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1  
TEL：03(5412)1736  
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/>  
編集人：中嶋英彦

※ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。  
(株)アストクリエイティブ安全運転普及本部係  
TEL：03(5439)1191  
E-mail：sj-mail@spirit.honda.co.jp

## 事例② 高松市役所

独自の手法と Honda のプログラムを  
組み合わせる

1月9日、香川県の高松市立林幼稚園で同市交通指導員による交通安全教室が開催され、園児96名が参加した。交通安全教室は人形劇からスタートする。交通指導員と人形の「あいちゃん」による寸劇で、舞台は幼稚園の駐車場という設定。「あいちゃん」は自分でドアを開けてクルマから降りようとする。クルマのそばを通りかかった交通指導員が「今、おうちの人がドアを開ける前に自分で開けたでしょう？」と声をかける。「お友だちが待っているから早く幼稚園に行きたい気持ちはわかるけど、自分でドアを開けて、近くを歩いている人や走ってきたクルマにぶつかったら危ないよね。だから、おうちの人がドアを開けてくれるまで、自分のイスに座って待ちましょう」。そして、クルマに乗る時はチャイルドシート（ジュニアシート）に座ってベルトをしっかり締めたことを確認し、「クルマのドアは開けません」「クルマに乗ったらベルトをかつちん」という約束を園児に伝える。「自分でできない時は、おうちの人に『ベルトをかつちんしてください』といきましょう」と交通指導員がアドバイスする。さらに、「飛び出しはしません」「おうちの人と手をつなぐ」という約束を園児と交わした。

人形劇の後は、交通安全クイズとなる。交通指導員が出題するクイズに園児が答えていく。例えば、歩行者用信号機が赤の時に待つ位置に関する問題。車道に近い場所か、車道から離れた場所か尋ねると、多くの園児が後者と答える。「信号機が青に変わった時、すぐに渡れるから道路に近いところで待ったほうがいいと思うかもしれません。でも、道路に近いところにいるとクルマやバイクにぶつかってしまうことがあります。必ず道路から離れたところで待ちましょう」と、その理由を交通指導員が説明した。

交通安全クイズが終わると、交通指導員の一人が Honda の交通安全キャラクター「できるニャン」のパペットを持って登場。「わたしはできるニャン。わしがつくった体操を今からするにや〜」と「できるニャンたいそう」を始める。これは Honda が開発した幼児向け教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」に含まれる体操で、身体を動かしながら、楽しく安全行動が学べるようになっている。最初に交通指導員だけで体操を実演。体操の振付を園児に覚えてもらう。その後、音楽に合わせて園児が体操を実践し、「止まる」「観る」「待つ」という道路を渡る時の基本動作を確認した。

交通安全に関する DVD を視聴し、最後に前半の人形劇で示した4つの約束を振り返って交通安全教室は終了となる。最後に、小学校入学間近の年長クラスの園児には「おうちの人と一緒に小学校まで歩く練習をしましょう」と伝え、保護者に宛てた手紙を配付した。この手紙には通学路を歩く練習をする際に確認してほしいポイント（危険な場所はどこか、時間はどのくらいかかるか、帰り道は大丈夫か）が記載されている。

林幼稚園教諭 橋本恭子さんは「幼児期は丁寧に伝えていても継続するのが難しいので、私たちも日頃から繰り返し指導しています。交通安全教室は指導員の方々が視覚的に伝えるための様々な工夫をしているので、小さい子どもにもわかりやすい内容になっていったと思います。また、話の途中に体操を入れることによって、身体の動きと連携させて、安全行動を覚えるという手法は、子どもたちの印象に残りやすく効果的だと感じました」と話す。

高松市は、幼稚園・こども園・保育所における交通安全教室を6月から10月にかけて1回、11月から3月にかけて1回の年2回実施している。1回目は道路の渡り方や信号機について楽しく学べるような内容、2回目は年長クラスが小学校入学を控えていることから踏み込んだ内容にしていると交通指導員の小谷恵美さんは説明する。

『できるニャンたいそう』は2016年から2回目の交通安全教室に取り入れられました。本来、この体操は2回やるのが推奨されていますが、時間との兼ね合いで1回しかできません。そこで、体操の身体の動かし方をアレンジ（簡略化）しました。私たちの実演を1回見れば、子どもたちはだいたい振付を覚えてくれます。振付を簡単にした



「できるニャンたいそう」の振付は交通指導員がアレンジを加えた高松市のオリジナル



手づくりの教材で飛び出しの危険性をわかりやすく伝える



「できるニャン」のパペットで園児の注目を集める



最初に交通指導員が体操を実演し、園児に振付を覚えてもらう



人形劇では「あいちゃん」が自分でドアを開けてクルマから降りようとする



交通安全教室が終わる直前に4つの約束を再度確認



交通安全クイズでは信号待ちをする時、どこで待てばより安全かをアドバイス



年長クラスの園児には小学校入学までに保護者と一緒に通学路を歩くよう呼びかける



高松市交通指導員（後列左から）小谷恵美さん、松本増美さん、新谷希美さん、（前列左から）山口香織さん、富田理恵さん、西岡沙也さん

ことで、年少クラスも参加しやすくなり、幼稚園・こども園・保育所にも好評で、交通安全教室には欠かせない存在になりました。

交通安全教室で伝える内容も臨機応変に見直している。昨年、滋賀県大津市で歩道にいた園児にクルマが衝突する事故があったことを受け、交通安全クイズの中に歩道のどこで待つのがより安全かを考えてもらう質問を加えている。「クルマのドアは開けません」という約束も今年度から追加したものだ。「幼稚園・こども園・保育所の先生方からの要望が多かったのです。確かに、子どもがクルマのドアを開けられるということは、チャイルドシートに座っていない状態です。それが危険であることを、子どもたちを通じて保護者に伝えていかなければいけないと思いました」と小谷さんはいう。

## 「できるニャンたいそう」のCDが完成

「できるニャンたいそう」の歌と音楽だけを使いたいという要望に応え、CDを作成しました。活用を希望される自治体、警察、団体の方は下記にお問い合わせください。



本田技研工業（株）  
安全運転普及本部 開発普及課  
TEL 03-5412-1150



岩国染香幼稚園の保護者を対象にした交通安全教室。幼児の保護者向けプログラム「わが子の命を守るために」を活用しながら進められた

### 事例③ 交通安全岩国市対策協議会

#### 幼児の保護者に交通安全への理解を深めてもらう機会の拡充をめざす

1月17日、山口県岩国市にある岩国<sup>せんこう</sup>幼稚園で同協会交通指導員による交通安全教室が開催され、園児34名とその保護者が参加した。前半は園児を対象にした指導が行われ、保護者も一緒に受講。後半は保護者のみを対象にした交通安全教室となった。

今回の保護者向けの交通安全教室に取り入れられたのが、Hondaが開発したプログラム「わが子の命を守るために」。このプログラムは幼児の保護者に対して、危険な交通場面の映像と資料から自分の行動を振り返り、わが子の命を守るために何をすべきか、気づいていただくことを目的とし、「歩き方」「自転車」「自動車」など5つのテーマからなる本編映像および資料集で構成されている。本編映像は2人の保護者（お母さん）の交通安全に対する意識や行動を比較することで、子どもを事故から守るための行動について考える内容となっている。映像を流すだけでなく、指導者が保護者と対話できる構成になっている点が大きな特徴である。

今回は「歩き方」「自動車」をテーマにした本編映像を活用。「歩き方」では、歩行者用信号機が青点滅になった時、先に渡り始めたお母さんが横断をやめようとする子どもに「早く行くよ」と呼びかけると、走り出した子どもが右折してきたクルマと衝突してしまうという映像が流れる。この後、交通指導員が保護者に「信号が青の点滅になった後、道路の横断を始めるかどうか」について意見を聞いていくと、「青の点滅になると、いつも急いで渡ってしまう」と、保護者は実際の行動を口にする。「いけないとわかっていても、ついやってしまいがちなことだと思います。ちょっとした油断で事故に巻き込まれてしまうので注意が必要です。子どもたちは良いことも悪いこともお父さん、お母さんのマネをします。ですから、子どもたちの身近にいる皆さんがお手本を見せてあげてください」と交通指導員は呼びかけた。そして、プログラムの資料集に収録されている飛び出し事故の事例を紹介。幼児が樹木のカゲから道路の反対側にいる家族のところに向かって飛び出し、クルマと衝突してしまうというものだ。この事故の原因を幼児、家族、ドライバーのそれぞれの立場で保護者に考えてもらい、どうしたら事故を防げたかを検討した。

続いて、「自動車」の本編映像を流した後、交通指導員が「映像の中で朝、幼稚園に子どもをクルマで送る時にお母さんがチャイルドシートを使わず、後部座席に座らせてしまうシーンがありました。皆さんはどのように感じましたか?」と問いかける。

保護者の一人が「朝、余裕がない時はチャイルドシートを

使わないことが多い」と答えると、それに他の保護者もうなずく。チャイルドシートを使わないと、どのような危険があるのか、交通指導員はプログラムの資料集にある映像を見せて、チャイルドシートの重要性を説明。シートベルトで座席に固定するタイプのチャイルドシートは、使っているうちにシートベルトが緩んでいくので2カ月に1回は付け替えて緩みをとるなど、安全な使い方についても補足した。

保護者からは「事故事例など映像で見せてもらえて、とてもわかりやすい内容でした」「小学校入学に向けて、家庭でも繰り返し交通安全について教えていかなければいけないと感じました」「幼稚園の送迎時など急いでいる時は、チャイルドシートを使わないことがあります。今考えると、とても怖いことをやっていたので気をつけたいと思います」という声が聞かれた。

岩国染香幼稚園では2年に1回、園児と保護者が一緒に参加する交通安全教室を行っている。同園園長 熊谷里美さんは「子どもたちがどのような交通安全教育を受けているかを保護者の皆さんに知っていただくことを目的に始めました。一番身近にいる大人の行動が子どもの安全意識に影響



前半の園児を対象にした交通安全教室では保護者と手をつないで、道路を渡る前の安全確認について練習。道路の中央に来たら、左側を再度確認してもらった



岩国市対策協議会も交通安全教室の中に「できるニャンたいそう」を取り入れている



保護者に交通指導員が問いかけ、本編映像を見て感じたことを引き出す



資料集の映像を使って、どのように行動すれば安全かを解説

します。そこで、今回初めて保護者だけを対象にした教室を実施することにしました。事故は日常生活の中のちょっとした注意不足で起きてしまうことを映像や交通指導員の方の問いかけによって気づくことができ、保護者の皆さんの意識を良い方向に変えられる内容だと感じました」と話す。交通指導員の中村恵さんは、幼児の保護者に交通ルールを守ることの大切さを訴えかけられる教材を待ち望んでいたという。「Hondaのプログラムは私たちを含めた現場の指導員の意見や要望が反映されているので、とても使いやすいものです。今回のように、交通安全教室に保護者が参加する時に活用することになっています。事故は自分が油断している時に起こることが多いと思います。万一事故を起こして、子どもが大きくなケガをしたり、亡くなった時は親として自分が油断したことをずっと悔やむことになるでしょう。そういう思いを皆さんにしてほしくありません。だからこそ、保護者の安全意識を高めていくことは重要だと考えています。」

交通安全岩国市対策協議会は今後も市内の幼稚園・保育園にはたらきかけ、保護者向けの交通安全教室を増やしていく考えだ。



交通安全岩国市対策協議会交通指導員（左から）高本雅恵さん、中村恵さん、森木久美さん

## Close Up

## クローズアップ 交通教育センター①

## 消防団員にオフロードバイクの有用性を理解してもらい、地域の赤バイ普及につなげる

地震などによる大規模災害が発生した際、交通がマヒした被災地において、バイクは機動力のある移動手段となる。災害発生時、いち早く被災現場に向かい、情報収集するという役割を果たしているのが、通称「赤バイ」と呼ばれる消防活動用バイクだ。赤バイを導入している消防団※は全国で59市町村、保有台数は245台になる（2019年4月1日時点）。

赤バイのさらなる普及をめざし、総務省消防庁（以下、消防庁）は2017年度から2019年度にかけて、47都道府県の消防学校（消防職員・消防団員の教育訓練を行う施設）にオフロードバイク（Honda CRF250L）を2台ずつ配備している。配備が完了した消防学校で順次、消防団員を対象とした「オフロードバイク研修」（主催：消防庁）を実施。この研修の運営と指導を交通教育センターレインボー埼玉（以下、レインボー埼玉）が担当し、オフロードバイク特有の車両特性を理解してもらうための座学と実技を行っている。消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室課長補佐石川真也さんは「オフロードバイクは災害発生直後、被災現場の情報を迅速に収集するために有用なものです。消防団員の皆さんにオフロードバイクを体験してもらうことで、所属する消防団での導入のきっかけになればと考えています」と話す。

昨年12月14日、愛知県消防学校（愛知県尾張旭市）で「オフロードバイク研修」が開催され、同県内の消防団員10名が受講した。

まず、受講者には、実際に赤バイを運用している消防団の活動を紹介したPR動画を視聴してもらう。次に、レインボー埼玉のインストラクターがバイクの利点、オフロードバイクの車両特性と走行に関する注意点について解説。その後、屋外に移動し、実車に触れながら点検の方法、正しい乗車位置、運転姿勢などをインストラクターが説明した。

昼食をはさんで午後からは、消防学校の広大な敷地を利用して実技が始まる。まず、舗装路でパイロンスラロームやブレーキングを体験。オフロードバイクの操作に慣れると、いよいよ不整地での訓練となる。不整地でのコーナリングでは後輪を滑らせて旋回する場合があります。その際に内側の足を前方に突き出すという運転技術を身につける。これはコーナリング中にバイクが予想以上に大きくスライドした時などに、地面に足を着いて支えることで、転倒を避けることを目的としている。インストラクターは受講者の運転を観察し、「足を真下に出



全国の消防学校に配備されている Honda CRF250L

したり、つま先が外側に開いていると、地面に足を着いた時に、膝や股関節に余計な力がかかり、ケガにつながる危険があります。必ず足は前方に出し、つま先が外側に開かないように意識しましょう」とアドバイスした。

受講者の一人、瀬戸市消防団の吉筋健太郎さんは「インストラクターのアドバイスでシートの前寄りに着座することを意識したら、スラロームの際にバイクをコントロールしやすくなりました。私たちの消防団には赤バイがあるので、今回のような訓練を



座学では赤バイの活動を紹介したPR動画を視聴



最初に舗装路でオフロードバイクの運転に慣れてもらう



不整地でオフロードバイク独特の運転技術を訓練

取り入れ、多くの団員が活用できるようにしたいと思います」と話す。また、知立市消防団の加藤雅司さんは「クルマが入れないような場所では、バイクの有用性が高いことがわかりました。現状、赤バイはありませんが、バイクがあれば私たちの活動の幅が広がると実感できました」と感想を語った。

※消防団は消防本部や消防署と同様、消防組法に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関。構成員である団員は権限と責任を有する非常勤特別職の地方公務員である一方、他に本業を持ちながら、自らの意思に基づく参加、すなわちボランティアとしての性格も併せ持っている。



インストラクターが運転姿勢などをアドバイス



一本橋で低速でのバランスのとり方を身につける



悪路を想定した波状路の走行も体験

## Safety Info.

## インフォメーション

## 2019年 Honda 安全運転普及本部年末ご挨拶会開催



2019年の安全運転普及活動について映像を交えて紹介

昨年12月6日、Honda 青山ビル（東京都港区）にて「2019年 Honda 安全運転普及本部年末ご挨拶会」が開催され、交通関係者約300名が参加した。

報告会では八郷隆弘 本田技研工業（株）代表取締役社長が「昨年の交通事故死者数は

過去最多だった1970年と比べ、約5分の1となっています。これは交通安全基本計画に基づき、官民が一体となって取り組んできた成果だと思っておりますが、未だ多くの尊い命が失われている事実を重く受け止めています。Hondaが1970年、他社に先

駆けて安全運転普及本部を設立して半世紀が経ちます。環境変化や時代のニーズを常に先取りし、安全技術の研究・開発を行うと同時に、その技術、機能を正しく理解し、安全にお乗りいただくため、『人から人への手渡しの安全』『危険を安全に体験する参加体験型の実践教育』を基本として、人に焦点を当てた活動を続けてきました。今後も交通事故ゼロ社会の実現をめざし、積極的に活動を展開してまいります」と挨拶。続いて、中嶋英彦 本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長が「新しい教育プログラムの開発」「四輪販売会社での安全活動」「海外での活動」など2019年の主な取り組みについて紹介した。

最後に、来賓を代表して高田陽介 警察庁長官官房審議官が挨拶。「交通事故を防止するためには、官民連携による取り組みが重要です。民間の視点で交通安全に積極的に取り組んでいる企業や団体が果たす役割は



会場内に展示された Honda ライディングシミュレーター ポリスタイプ（開発中）

極めて大きいので、引き続き取り組みの推進と警察行政への協力をお願い申し上げます」と述べた。会場には白バイ隊員をはじめとする二輪車乗務警察官の危険感受性向上の訓練等に活用していただくための教育機器として開発中の Honda ライディングシミュレーターポリスタイプも展示され、来場者の注目を集めた。

報告会の後には懇談会が開かれ、交通関係者の交流の場となった。



八郷隆弘 本田技研工業（株）代表取締役社長



高田陽介 警察庁長官官房審議官

## Close Up

## クローズアップ 交通教育センター②

## 「人・企業・信頼」をテーマに開催

## ～2019 トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉～

昨年11月27日、埼玉会館（埼玉県さいたま市）で「2019 トラフィック セーフティ・フォーラム in 埼玉」が開催された（主催：交通教育センターレインボー埼玉・和光）。このフォーラムは、交通安全活動に取り組む企業や団体を対象に事故防止の施策などの情報交換を目的に行われており、この日は企業・団体から約300名が参加。開会にあたり、主催者を代表して佐竹正規（株）レインボータースクール代表取締役社長、来賓を代表して古賀康弘 埼玉県警察本部交通部長が挨拶を行った。

まず、交通事故防止活動の事例発表として、首都高パトロール（株）業務部管理役 大竹敏志さんが、首都高速道路での業務における安全対策を紹介。同社は全線約320km、1日に約100万台の車両が通行する首都高速道路の安全確保を担っている。事故・故障車・落下物といった交通障害が年間約4万8000件（2018年度）も発生。事故は減少しているものの、落下物については増加傾向だという。

同社はパトロールカーで定期的に首都高速道路全線を巡回監視している。そして、事故・故障車・落下物等の異常事態が発生した場合は、交通管制室と連携して二次事故を防止するため、速やかに交通規制を実施するなど必要な措置を講じるのだ。1日の

パトロール回数は141回で、走行距離の合計は約1万3000kmになる。

こうしたパトロールカーやバイク隊（下記参照）の事故を防止するため、同社では様々な対策を実施。安全運転中央研修所や警視庁交通安全教育センター、Hondaの交通教育センターでの実技研修を利用するなど、社員が安全運転技術の向上に努めている。また、動画KYT※（危険予測トレーニング）を活用し、交通状況の変化に潜む危険に意識を向けることを指導したり、現場でのヒヤリハット事例についてドライブレコーダーの記録映像を全社員で共有し、事故防止に役立てている。このほかにも、「クルマに背を向けない」「相手の安全に気を配る」「自分の身は自分で守る」という安全の三原則を朝・夕礼で唱和し、安全への意識づけを図っているという。「このような取り組みを推進した結果、パトロールカーによる事故件数は減少しています」と大竹さんは話す。

この後は、SOMPO リスクマネジメント（株）モビリティコンサルティング部自動車グループ主席コンサルタント 落合律さんが「事例から読み解く効果的『自動車事故防止』活動のポイント」というテーマで講演。「事故を予防し、削減するには現場管理者の役割が重要です。管理者は『なぜ



会場には企業・団体の安全運転を推進する担当者を中心に約300名が集まった



首都高パトロール（株）業務部管理役 大竹敏志さん

事故が減らない？」と考えるのではなく、『事故を減らすために自分ができることは何か？』を考えてほしいと思います。ドライバーに交通安全を押し付けるのではなく、興味を持って取り組める環境を整備してください」と述べ、実車訓練やドライブレコーダーを有効活用した事例などを紹介した。「対策を実施したら、必ずその効果



SOMPO リスクマネジメント（株）モビリティコンサルティング部自動車グループ主席コンサルタント 落合律さん

を検証してください。定期的に検証を行うことで、さらなる問題点を見つけることができ、成果を出すことにつながります」と落合さんは締めくくった。

※ Hondaが開発した教育機器。実際の交通状況を再現したCG動画を見ながら危険を予測し、その過程を受講者同士が振り返りながら話し合うことで危険感受性を高められるようになっている。

## トンネル内での火災発生時、現場で初期対応にあたる首都高パトロールバイク隊

首都高パトロール（株）にはパトロールカーのほかにバイク隊も存在する。これは民間企業として日本で初めて緊急指定を受けた二輪車で、その車体の色から「黄バイ」と呼ばれている。

首都高速道路の中央環状線・山手トンネルは全長18.2kmに及び日本で最も長い道路トンネルだ。この区間で火災が発生した場合は、迅速にトンネル内を通行する車両の安全を確保しなければならない。そのため、渋滞の中でも、いち早く現場に到着できるようにバイク（400cc）を導入したのである。2007年12月、山手トンネル（当時は6.7km）の開通に合わせ、バイク隊を創設。28名でスタートした隊員数は現在



では53名となっている。

バイク隊は5交代勤務のため5班に分かれている。1班は10名で、2名1組となり3組がバイク、2組がパトロールカーを担当。バイクの3組は山手トンネルの入り口にある志村基地（北側）と大井基地（南側）、中間点である大橋ジャンクションの3カ所で待機している。副隊長を務める仲昌利さんは「バイク隊は、トンネル内で何か事象が発生した時のみ出動することになっています。どこでどのような事象が発生するか、様々なパターンをシミュレーションしているので、その想定を踏まえ最適な場所に待機している隊員が現場に急行します」と説明する。

バイク隊の主な役割は「トンネル内への車両の進入を防ぐため、坑口（トンネルの入り口）での車両停止制御を行う」「火災現場に接近する車両を防ぐため、上流の出口で排出誘導を行う」「火災現場に到着し、現場の状況の把握および車外避難誘導を行う（状況によっては消火も行う）」という初期対応である。また、事故や故障車などトンネル内で交通障害が発生した際も出動し、二次事故を防止するために通行車両を誘導したり、現場の状況を交通管制室へ報告するといった活動をしている。隊員の荒巻翔遥さんは「最初に到着するのは常に私たちです。現場の状況を確認して報告するだけでなく、時には自分一人での後の対



Honda CB400SBがベースとなっているバイク隊の車両。隊員は万が一に備え、エアバッグとボディプロテクターを内蔵したベストを着用している



2名1組で現場に急行し、初期対応にあたる



首都高パトロール（株）バイク隊副隊長 仲昌利さん（左）、同隊員 荒巻翔遥さん（右）

応を瞬時に判断しなければいけない場合もあり、たいへん重要な役割を担っていると感じています」という。

バイク隊は迅速かつ確実に現場に到着することが求められるため、安全運転技術の向上にも力を入れている。1ヵ月に1回は班ごとに自主訓練を行っているほか、1年に1～2回、交通教育センターレインボー埼玉での安全運転研修にも参加している。

近年、首都高速道路では車両火災が多発している。その多くはエンジン部もしくは車両下部から出火するケースだという。車両故障に起因する火災は日常的な点検・整備によって防ぐことができると考えられる。オイルと冷却水の点検・補充、タイヤの摩耗や空気圧の点検を忘れないようにしてほしいと、同社はドライバー・ライダーに呼びかけている。

## SJ Interview

SJ インタビュー

## 歩行者優先の意識を日本に定着させるため トラフィックヒエラルキーの確立をめざす

人間工学を専門とする加藤さんは、ヒトと機械との適切な関係を構築することで、日常生活における安全性、快適性、効率性の向上をめざすための研究に取り組み、交通安全もテーマの一つとしている。

2016年に（一社）日本自動車連盟（JAF）が発表した信号機のない横断歩道での歩行者横断時におけるクルマの一時停止状況の調査で、歩行者が渡ろうとしている場面で一時停止したクルマは7.6%という結果が出た（2019年の調査では17.1%）。このような状況を改善したいと、加藤さんは交通弱者優先について継続的に研究している。

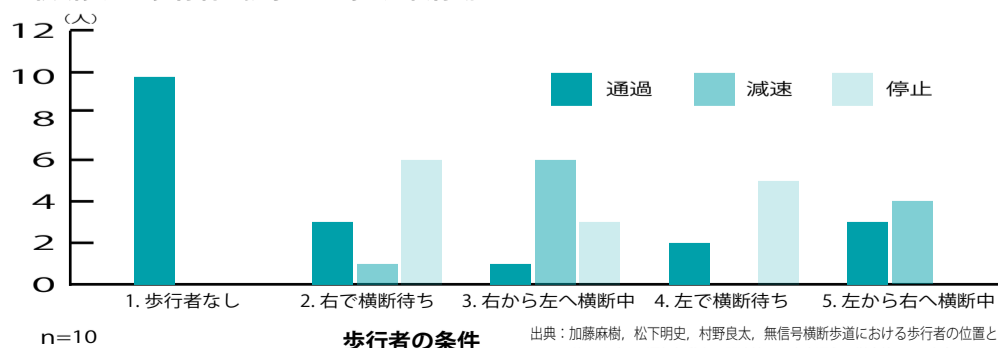
道路交通法第38条では、横断歩道における歩行者優先が規定されており、横断歩道に歩行者がいる時、車両は停止して道を譲らなければならない。違反すると、歩行者妨害として基礎点数2点の行政処分と反則金が課せられるのだが、こうした規制は残念ながら十分に機能しているとはいえないと指摘する。

「以前、海外の自転車事情や生活道路について調査するため、諸外国を訪問しました。国によって状況は異なるものの、欧米の先進諸国では横断歩道における歩行者優先については顕著に実践されています。こうした国の方々が日本を訪れた時、自国の慣習を実践して無頓着に道路を横断すると、多くのドライバーと衝突する危険性を抱えることとなります。訪日する外国人は今後も増えていくことが予想されますから、日本でもドライバーに歩行者優先の意識を定着させる必要があるのです」。

### 歩行者の挙動とドライバーの 運転行動との関連性

加藤さんは横断歩道上の歩行者の挙動とドライバーの運転行動との関連性に着目。シミュレーターを使って、一般のドライバーに指定したコースを走行してもらい、途中にある信号機のない横断歩道に歩行者を登場させ、どのような行動をとるか観察したのである。あらかじめドライバーには歩行者優先のルールを確認。横断歩道は見通しの良い直線道路上にあり、歩行者は横断歩道の右側または左側で渡るのを待っているか、右側または左側から横断する状態とした。「横断歩道の近くに歩行者を見つけると、明らかに挙動に変化が生じます。歩行者が横断の機会をうかがっている時は一時停止する割合が高くなります。しかし、右側から横断してくる時は減速して歩行者の通過

### ●横断歩道に歩行者を提示した時の運転行動



をやり過ごす場合が多くなるのです。できるだけ止まらずに行きたいという心理がはたらくのでしょうか。ドライバーは歩行者を認知していると推測されることから、優先性に実効性を持たせることができればクルマを一時停止させられる可能性は高くなると思われれます」。

今年度は横断歩道を見通しの悪い場所に設定したり、天候を夜間にするなど条件を変え、ドライバーの視線移動も含めた詳細なデータを収集し、分析を進めているところだという。

### 先進諸国で歩行者優先の 意識が浸透している背景

欧米の先進諸国と日本で、歩行者優先に対する意識に差が出る要因の一つとして、加藤さんは交通安全教育をあげる。「例えば、ドイツは3歳から交通安全教育が始まります。その基本となっているのは、交差点を一つの社会とみなす考え方です。道路、信号機、横断歩道で囲まれた小さな社会はトラックやバス、乗用車、自転車、歩行者など老若男女で構成されています。安全な交差点の条件は、ルールやマナーといった社会的コンセンサスにより保たれる秩序です。この秩序を乱すと事故につながり、小さな社会は壊れてしまいます。社会を乱さないように円滑に動かす、これが交通安全であることを3歳から継続して教えています。また、デンマークの交通安全教育の基本は『責任』です。2歳から『まず自分に対する責任を持ちなさい。そして、他人に対する責任を持ちなさい』と教えています。ドイツもデンマークも、小学校の先生が自転車の教習課程に従って低学年から乗り方と交通ルールを指導しています。自転車を題材に交通ルールを学んでいくので、運転者としての歩行者優先の意識が育まれ、そのマインドがドライバーやライダーになった時にも受け継がれるのだと思います」。

### 「階級」という表現で 交通弱者優先の考え方を示す

日本において歩行者優先の意識を定着させるため、加藤さんが提案するのは混合交通におけるトラフィックヒエラルキーの確立だ。「混合交通において物理的な強弱関係がそのまま行使されると、交通弱者が道路を利用するのは困難となります。自転車やクルマに対して歩行者が、またはクルマに対して自転車が交通社会の中で対等の位置に立つには、一定の優先性を持たせる必要があります。さら



早稲田大学 人間科学学術院 教授 加藤麻樹 さん

に、道路交通法に実効性を持たせるためには強弱関係を解消するほどの強い影響力が求められます。そこで交通社会上の通念として、『優先』ではなく『階級』と表現することによって弱者優先の考え方を示し、これまで曖昧だった関係を明確化しようというのがトラフィックヒエラルキーです。

トラフィックヒエラルキーは文字通り、交通における階級制度である。階級のうち歩行者が最も高い地位を占め、2番目に自転車が続く。これらは低速かつ身体が露出した交通で物理的には極めて弱いため、最も地位を高くすることで他の交通を従える。

3番目はバスや路面電車などの公共交通。バスや路面電車は一度に多くの人を運ぶインフラであり、誰でも利用できる交通機関なのでエンジンがついた交通では最上位となる。4番目はタクシーやトラックなど商業目的の交通。タクシーは複数の人を運ぶ機能を有し、トラックは物流により経済を支える点で社会的な公共性を持つと考える。

最下層に位置づけられるのが個人的に利用されるクルマで、複数利用か単身利用で2つの階級に分かれる。例えば、クルマ1台に複数の人が乗車すれば一度に移動する人数は増えるので、道路または駐車場でクルマが占める面積に対する運搬効率が上がり、交通渋滞や駐車場不足といった課題解決にも寄与する。

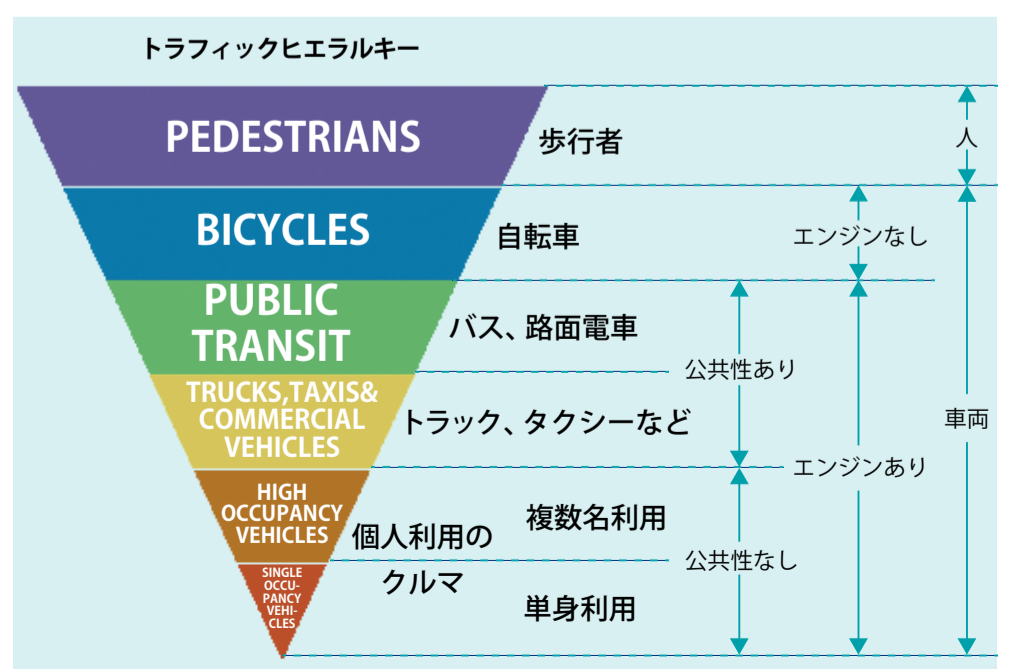
「4人で1台に乗車していた人たちが各々のクルマで移動すると、道路と駐車場で占有する面積が4倍に増えるので効率が極端に下がります。複数名乗車を推奨する例が、アメリカのカープールレーンです。追い越し車線の最も左側（日本に置き換えると最も右側）をカープールレーンとして、複数名乗車しているクルマが優先的に走れるようになっています」。

### 人々の意識が劇的に変わる チャンスは必ず来る

トラフィックヒエラルキーという混合交通における階級づけは強弱関係、公共性、効率性を考慮した合理的な考え方といえる。これを多くの人に理解してもらうことが歩行者優先の意識を日本に定着させることにつながると、加藤さんは講演や研究発表の場でトラフィックヒエラルキーを周知するための活動を続けている。

「ドライバーだけでなく、歩行者側の意識を変えていくことも重要です。今の日本では、歩行者がクルマ優先であることを甘受してしまっています。クルマが横断歩道の手前で一時停止して道を譲っても、立ち止まったままクルマを先に行かせようとする歩行者も少なくありません。慣習として定着している行動を変化させるのは難しいと考えられるが、加藤さんは歩行者優先に対する人々の意識は「善意」によって大きく変わるチャンスが必ず来ると信じている。

「社会的な常識やマナーは、その時代によって変わることがあります。例えば、エスカレーターで片側を空けるという慣習。本来、エスカレーターは立ち止まって乗るものですが、『先を急ぐ人のために道を譲ろう』という善意によって、片側を空けることが常識化したものだと考えられます。また、喫煙者のマナーも昔に比べて良くなりました。公共の場所で分煙化が進んでいる根底には『タバコが嫌いな人に迷惑をかけるのはやめよう』という喫煙者の善意があると思います。このような善意が多くのドライバーの中に生まれれば、歩行者に道を譲ることが社会的な常識になるはずですよ」。



# All About SAFETY

安全をいかに創造するか

「安全である」ということは、すべての業界において共通の目標といえるでしょう。「All About SAFETY」は、様々な業界や企業がどのように安全を追求しているか、その考え方や具体的な取り組みを紹介し、皆様の安全活動の参考としていただくための連載記事です。  
今回は、消防車・救急車を運転する方々の安全運転への取り組みを取り上げます。



中央研修所の「消防・救急緊急自動車運転技能者課程」は全国各地の消防署の機関員が受講している

## 消防車・救急車を運転する方々の 安全運転への取り組み 迅速な消火・救急活動につながる安全運転

### 消防車・救急車の運転者を 対象にした安全運転研修

災害や傷病人が発生した際、いち早く現場に駆けつけるのが消防車や救急車だ。その運転を担う消防職員等に安全運転に必要な知識と技能を身につけてもらうことを目的として、茨城県ひたちなか市にある自動車安全運転センター安全運転中央研修所（以下、中央研修所）では「消防・救急緊急自動車運転技能者課程」という研修を年12回開催している（2019年度）。同課程は消防車を想定した中型車（6t・4tトラック）と、救急車を想定したワンボックス車の2つのコースがあり、いずれも4日間に及ぶ。1～3日目は中型車またはワンボックス車で急制動やスラローム、狭路走行、バック走行などの訓練に取り組む。夜間研修もあり、昼間との速度・距離感覚の違い、蒸発現象、歩行者の着衣の色彩による視認性の違いなどを体験する。

最終日の4日目は中央研修所の模擬市街路で、サイレンを鳴らして本番さながらの緊急走行を受講者が一人ずつ実践。途中、教官が運転する原付や乗用車によって、いろいろな障害が作り出される。例えば、信号機が赤で交差点を左折する場面では、右側から乗用車が猛スピードで交差点内に入し、受講者のクルマと鉢合わせになる。受講者は安全に通行できるようマイクを使って乗用車に指示を出し、誘導する。この時の対応は交差点内に乗用車を停止させて通過するケースと、乗用車を先に行かせてから追い越すケースの2つに分かれた。この後、教室で行われた検討会で、教官の滝口雅彦さんは「交差点の中は危険な場所なので、クルマを止めてしまうのは好ましくありません。安全な場所で左に寄って止まってもらった後、追い越すほうが安全といえます」と講評した。そして、「一般のドライバーの協力があって、皆さんの仕事が成り立っていることを忘れないようにしてください。一般車が止まって道を譲った時は『ご協力ありがとうございます』と付け加えましょう。そのドライバーは次も協力しようという気持ちになると思います」とアドバイスした。

### 緊急走行中は常に止まることを意識している

昨年12月に開催された「消防・救急緊急自動車運転技能者課程」の受講者の一人が、

東京消防庁秋川消防署（東京都あきる野市）で救急機関員を務める小澤良太さん。救急車・消防車の運転を担う消防職員は機関員と呼ばれる。小澤さんは普通機関技術と救急標準課程の資格認定を受け、4年前から救急車のハンドルを握っている。「研修を受講して、昼夜の視認性の違いを体験できたり、緊急走行の訓練では注意が足りていなかった部分が把握できました。また、座学での『ミスやエラーは省略行為があった時に起こる』という話も印象に残っています。細かい確認行動も疎かにできないと感じました」と研修を振り返る。

小澤さんは緊急走行中、常に止まることを意識しているという。「初心者や高齢者の方は後方からの救急車に気づいた時、ビックリしてその場で急停止してしまうことがあるため、追突しないように注意する必要があります」。緊急走行の際、赤信号や一時停止の標識のある場所でも徐行で通過することが法的には許されている。しかし東京消防庁では一時停止して、十分な安全確認を行ってから通過することを徹底している。サイレンを鳴らしていても気づかないドライバーは少なくない。「最近のクルマは気密性が高いため、窓を閉めて音楽を流していたらドライバーがサイレン音に気づきにくいようです。ルームミラーを見るドライバーは少ないと感じているので、サイドミラーに救急車が映る位置を走行するように工夫しています。マイクによる広報も大切です。例えば『道路の真ん中を走ります』など、具体的に広報するように心がけています」。傷病者を病院に搬送する際はハンドルやアクセル、ブレーキの操作にも細心の注意を払う必要がある。クルマに無駄な動きがあれば、それが傷病者にダメージを与えてしまうこともあるからだ。「加減速の調整はゆるやかに、カーブを曲がる時は極力、傷病者の身体が揺れないようハンドルとブレーキを慎重に扱っています」。



東京消防庁秋川消防署 救急機関員 小澤良太さん



中央研修所内の模擬市街路を利用した緊急走行の訓練



受講者がバスに乗車し、窓を閉めた状態と窓を開けた状態でサイレンの聞こえ方の違いを比較

状況を把握するための調査（警防調査）を行い、出場の際に住所を聞いただけで、目的地までのルートや電柱の張り出し具合など現場の様子が脳裏に浮かべられるようにしているという。「出場から帰署まで気を抜ける瞬間はほとんどありません。それでも、人の役に立てる仕事に就いていることが誇りですし、やりがいです」。

### 出場は早く、走行は安全に 現場はスムーズに

「クルマやバイクが子どもの頃から好きで、運転と人助けの両方ができる仕事として、消防士をめざしました」と語るのは、東京消防庁赤坂消防署（東京都港区）のポンプ機関員 松田裕さん。普通機関技術（ポンプ車や化学車など中型車両の運転資格）、特別操作機関技術（はしご車や空中作業車など塔体装置を有する車両の運転資格）の認定を取得しており、東京消防庁で保有する車両はほぼすべて運転できるという。

「出場指令が出ると、機関員は通信室で現場に向かうルートを確認します。最短距離で到着するだけでなく、到着後の水利（消火栓や防火水槽のこと）確保も考慮して、どの方向から現場にアプローチするかを決め、



東京消防庁赤坂消防署 ポンプ機関員 松田裕さん



緊急走行の後に行われる検討会では教官と各自の運転を振り返る



消防車を想定した中型車の研修では、トラックで狭い道をバックで走行する訓練などが行われた

他の機関員と共有します」。それを出場指令から消防車が出発するまでの約1分で終わらせるのである。

松田さんの機関員キャリアは12年を数えるが、それでも緊急走行は緊張の連続だという。「とにかく早く現場に着いて消火活動をしなければなりません。はやる気持ちを抑え、移動中はメリハリのある運転を心がけています」。

赤坂消防署の管内は都心部ということもあり、クルマはもちろん自転車や歩行者が行き交う場所を通行することが多い。こうした自転車や歩行者との事故にも注意しなければならない。「最近はやホンをして歩いたり、自転車に乗っている人が多いので、消防車に気づいてもらえないことが増えました。また、私たちは赤信号の交差点を通過する時に安全確認のため必ず停止線の手前で一時停止するのですが、その時に横断を始めてしまう歩行者もいるので注意しています」。

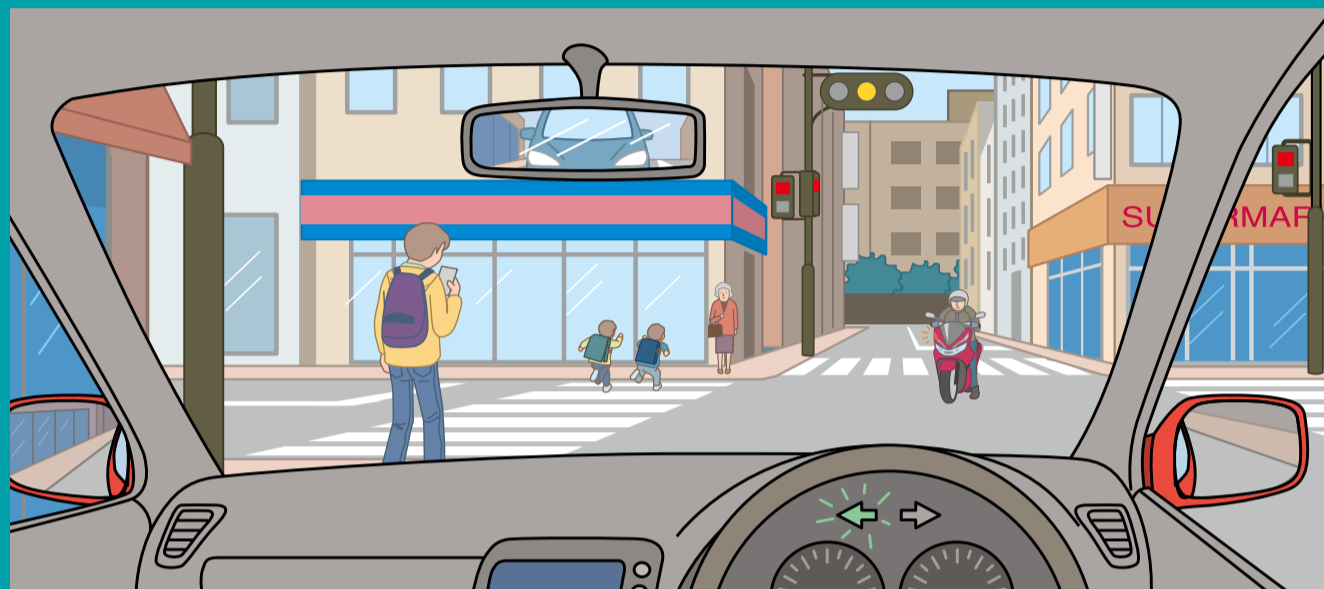
松田さんも小澤さん同様、警防調査に余念がない。自転車で管内の道路を巡り、水利の位置、駐車車両の状況を確認している。消火栓や防火水槽の近くに駐車車両があった場合は別の水利に移動しなければならないのだ。消火活動の妨げになるので、こうした場所には駐車しないでほしいという。

ポンプ機関員は運転だけでなく、現場到着後は消火栓とポンプ車の接続、放水圧力の調整、はしご車であればはしごの操作なども担う。「現場活動をできるだけスムーズに行えるための駐車技術も必須です。勤務の合間に署の駐車場で車両の細かい挙動を確認したりして、操作技術を維持向上させるようにしています。ただ、やはり最も大事なものは安全運転です。安全に現場に到着できなければ、消火活動ができないのですから」。

# KYT 危険予測トレーニング

## 第73回 交差点を左折する時（四輪車編）

あなたは交差点を左折しようとしています。  
歩行者用信号機は赤になったところです。  
安全に走行するためには、どのようなことを予測する必要がありますか？



交通事故を防止するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は四輪車のドライバーに、交差点を左折する時の危険について考えてもらうためのKYTです。

### 活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4版）」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード（無料）できます。

ホンダ SJ 検索

【使用上の注意】

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業（株）安全運転普及本部

TEL：03（5412）1736 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

## SJ クイズ ?

### 四輪車編

**Q1** 2019年の交通事故死者数（24時間死者数）は次のうちどれでしょう？

- ① 3,015人 ② 3,215人 ③ 3,415人

**Q2** 2019年にJAF（（一社）日本自動車連盟）が実施した「信号機のない横断歩道での歩行者横断時における車の一時停止状況全国調査」で、47都道府県のうち一時停止率が68.6%と最も高かったのは次のうち何県でしょう？

- ① 長野県 ② 静岡県 ③ 兵庫県

**Q3** 緊急自動車※の最高速度は一般道路で80km/hですが、高速道路では何km/hでしょう？

- ① 80km/h ② 100km/h ③ 120km/h

※消防用自動車、救急用自動車その他の政令で定める自動車で、当該緊急用務のため、政令で定めるところにより、運転中のものをいう（道路交通法第39条）



「解答」はP7下、「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。  
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

## Honda 春のセーフティキャンペーン

### 声かけでワンポイントアドバイス

Hondaでは4月1日～5月31日の期間、「Honda 春のセーフティキャンペーン」を実施します。

期間中はHondaグループ全体で、道路を使うすべての人に交通安全を意識していただくため、安全アドバイスや啓発冊子の手渡しと合わせ、新たに、専用ウェブページで「危険予測トレーニング（KYT）※」の提供などの啓発活動に取り組みます。今回特に、幼児・児童の交通事故防止につなげていただけるような内容を取り入れています。

また、家庭で交通安全について子どもと一緒に考えるきっかけとするための「交通安全めりえ」やHondaの最新の安全技術の情報、安全運転のためのアドバイスを紹介する冊子「Think Safety」を四輪販売会社の店頭やウェブページで提供します。



四輪販売会社で配布している安全情報誌「Think Safety」

### ●「交通安全めりえ」「Think Safety」ダウンロード（PDF）

ホンダ セーフティキャンペーン 検索

セーフティキャンペーンウェブページ（2020年4月1日更新予定）

[https://www.honda.co.jp/safetyinfo/topics/safety\\_campaign/](https://www.honda.co.jp/safetyinfo/topics/safety_campaign/)



危険予測トレーニング



交通安全めりえ

※「危険予測トレーニング（KYT）」実際の交通場面をアニメーション動画で再現し、危険と感ずる箇所を予測し、クイズ形式で答えるなどのケーススタディを通じて「交通センス＝危険予測能力」を身につけるためのトレーニングです。